

佐賀城築城400年記念

歴代藩主 と 佐賀城

Stories of feudal lord
and his family at Saga Castle

本丸
再建



能
興行

平成23年

9月26日[月]—12月3日[土]



徴古館

The Museum CHOKOKAN
NABESHIMA

平成23年度文化庁地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

享保11年

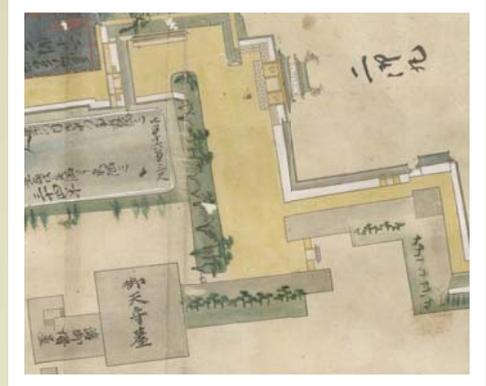
佐賀城焼失

4代藩主鍋島吉茂が前日より白石へ狩りに出かけており佐賀城を留守にしていた享保11年(1726)3月4日の昼四時半すぎのこと。火元は佐賀城東の武家屋敷街である片田江堅小路に借家住まいをしていた加々良久五郎宅だった。火の手は「東北の風、以てのほか烈しく」、隣接する鍋島上総屋敷(白石鍋島家)を全焼させた上、四十間堀と称された広大な城堀を越え城内に飛び火。その結果、天守閣・本丸御殿をはじめ、本丸・二の丸・三の丸はいずれも「御家残らず」、さらに火の手は南堀を越えて南御堀端・鬼丸・水ヶ江地区にも延焼し武家屋敷41軒が類焼した。火が鎮まったのは日暮れ前、藩主の帰城は翌日のことだった。



● 享保11年火災の延焼範囲
(元佐賀城廻之絵図/元文5年=1740)

その後の鍋島家は城内で火災を免れた諫早屋敷と、北の丸と称することとなる多久屋敷を借り上げ、神代(ましろ)屋敷を平常の居館とした。再建普請は翌年から動き出す。幕府の通知によれば、天守台周辺の石垣を元の如く築き直すことや、門や天守閣の再建が認可されているが、実際には天守閣も本丸御殿も再建されなかった。復興の対象となった二の丸の普請は、焼失から2年半後に完成し、享保13年8月9日に、藩主吉茂が二の丸に入っている。これ以降、天保6年(1835)5月11日の火災で二の丸が焼失し、10代直正によって本丸が再興されるまでは二の丸が藩主鍋島家による政務の中心となった。寛政8年(1796)の御城分間絵図には鯨が上った門が二の丸入口に描かれている。



● 御城分間絵図 寛政8年(1796)

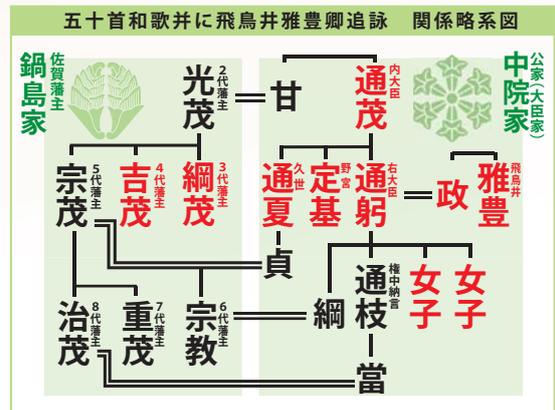
佐賀城は四周を広大な堀に囲まれた平城である。その堀幅は江戸初期の寛永年間に最も広い地点で約50間(≒100m)であった。ところが享保19年(1734)、5代藩主宗茂は「御開鑿之後百年有余二及び、岸々崩れたため幕府へ補修許可願いを出しており、6代宗教が一部を修復したが、財源を確保できず完遂しなかった。それから数十年を経た寛政8年(1796)8代治茂の時代、本格的補修のために作成されたのが本図である。現状と江戸初期の正保年間における堀幅の違いが注記されているが、なかには5間近く広がっている箇所もある。その描写対象は堀にとどまらず、土手や石垣、樹木、門など城内全域の景観を詳しく知ることができる好資料である。享保火災で焼失後は再建されなかった本丸に天守閣の姿はなく、「御天守台」とそれに続く「渡御櫓台」という石垣が残るのみである。現在、鯨の門(国重要文化財)のある本丸入口には、この時期には簡便な門が設けられている一方、政務の中心地であった二の丸入口には鯨を戴いた門が贅えている。

宝永3年

佐賀城本丸持仏堂での光茂七回忌



● 五十首和歌并に飛鳥井雅豊卿追詠 宝永3年(1706)



赤字は、本品に詠歌が収録されている人物

殊のほか和歌を好んだ2代藩主光茂七回忌の追善のため、嫡男の3代藩主綱茂が姻戚関係のある中院家(なかのいんげ)を通じて京の公家衆に依頼し、法華の経題を用いて詠まれた和歌短冊を手鑑に仕立てたのが本品である。歌人としても知られ、2代光茂継室甘姫の兄にあたる中院通茂(前・内大臣)を筆頭に京の公家衆、綱茂自身、矩茂(後の4代藩主吉茂)ら計50人の詠歌を書いた50葉の短冊が貼り合わせられ、さらに飛鳥井雅豊による追詠和歌1葉が添えられる。宝永3年(1706)5月16日の七回忌は佐賀城本丸の持仏堂で執り行われ、手鑑が光茂(乗輪院殿)の霊前に供えられ、光茂に仕えた山本常朝らによって読み上げられたのち、鍋島家の菩提寺である高伝寺に奉納された。



● 黒漆塗宝相華唐草蒔絵箱

五十首和歌の手鑑は、50人の詠者目録や飛鳥井雅豊追詠の短冊などと共に四重箱に収納されており、豊麗で生動感ある宝相華を蒔絵で表したこの箱は二重目にあたる。京都より四重箱にて重々しく仕立てられた本品は七回忌の数日前に佐賀に到着し、宝永3年(1706)5月16日、佐賀城本丸の持仏堂で七回忌が執行された。

佐賀城築城400年記念

歴代藩主と佐賀城



龍造寺系図・鍋嶋系図

2代光茂の男で、3代綱茂・4代吉茂を兄にもつ5代藩主宗茂は、宝永元年(1704)、吉茂が神代家(くましろけ)当主(神代弾正直利)の時にその嗣子となり、吉茂が本藩藩主を相続した後も享保元年(1716)に再びその嗣子となり、享保15年に45歳で5代藩主となった。

その年譜によれば、17歳の元禄15年(1702)から「龍造寺・鍋嶋両系圖」を起草し、15年後の享保元年に三瀬治部右衛門房成の浄書によって完成した。宗茂自身、「古今之士庶、親疎・遠近・貴賤を扱はず、老若男女・僧尼の輩、皆悉く筆記す」と記しているとおり充実した内容である。また、3代綱茂が京都・東福寺の明兆筆涅槃図を模写させた際に(この時の大涅槃図は菩提寺の高伝寺に現存)仲介をした京都の経師屋・若井利左衛門の手になる美しい装丁も見どころである。



● 龍造寺系図・鍋嶋系図 表紙



● 鍋嶋系図 巻頭

◇ 佐賀城下探訪会(まち歩き)【要事前予約】

佐賀城下のまち歩きを通して郷土の歴史を再認識し、今後のまちづくりに繋げることを目的とした佐賀城下探訪会です。9月~12月まで月に1回(計4回)行います。参加ご希望の方は、徴古館HPのお申込みフォーム、または電話・ファックス・メール等にてお申し込みください。

- ① 9月11日(日) 鍋島家ゆかりの寺社めぐり 一本庄地区
- ② 10月9日(日) 佐賀城内めぐりと天守台跡発掘現場の見学
- ③ 11月13日(日) 城下の医史跡めぐり
- ④ 12月11日(日) (テーマ未定)

※時間は、いずれも9時30分に徴古館を出発(16:00頃 終了予定)
参加費無料(但し、資料代500円が必要)/弁当・飲み物等は各自持参

◇ ワークショップ & ギャラリートーク【要入館料】

10月22日[土] 14:00~ 於:徴古館2階フロア
「城下の医者すまいを探そう」

武家地の土地台帳である屋敷帳や、町人地の住民台帳である籠帳を用いて佐賀城下の医者すまいを調べるワークショップです。11月13日にはその成果を反映させた第3回佐賀城下探訪会「城下の医史跡めぐり」を行います。*ワークショップ終了後に展示解説(ギャラリートーク)を行います。

◇ 講演会 & ギャラリートーク【要入館料】

11月26日[土] 14:00~ 於:徴古館2階フロア
高瀬 哲郎氏(石垣技術研究機構)「甦る佐賀城」

*講演終了後に展示解説(ギャラリートーク)を行います。



常設展示
「佐賀県の歴史と文化」
県展準備のため全館休館
11月11日(金)-11月18日(金)
佐賀美術展覧会
11月19日(土)-11月27日(日)
博物館・美術館:TEL 0952-24-3947

10月14日(金)-11月23日(水・祝)
「戦のデザイン」展
佐賀藩を雄藩へと導いた「戦」にスポットを当て、様々な武器・武具の展示を通じて、その様式や歴史について紹介します。
本丸歴史館:TEL 0952-41-7550



徴古館
The Museum CHOKOKAN
NABESHIMA

◇入館料:300円(小学生以下無料)
◇開館時間:午前9時半~午後4時(日・祝は休館)
◇お問合せ:(0952)23-4200
◇主催:(財)鍋島報効会(佐賀市松原2丁目5-22)
◇ホームページ <http://www.nabeshima.or.jp>

- ◆長崎自動車道 佐賀大和I.C.から市街方面へ車で20分
- ◆JR佐賀駅から徒歩約20分
- ◆佐賀駅バスセンターから、市営・昭和・祐徳の各バスで...
◇「県庁前」下車、東へ徒歩3分
◇「佐嘉神社」下車、西へ徒歩1分

